

ふる里の散歩路 (9)

旧上堺寺院めぐり

「こんな所にも寺院があったのか？」と、苔むした碑に懐古の情を寄せるのも楽しいことだと思います。

今日は旧上堺の寺院めぐりを紹介しましょう。

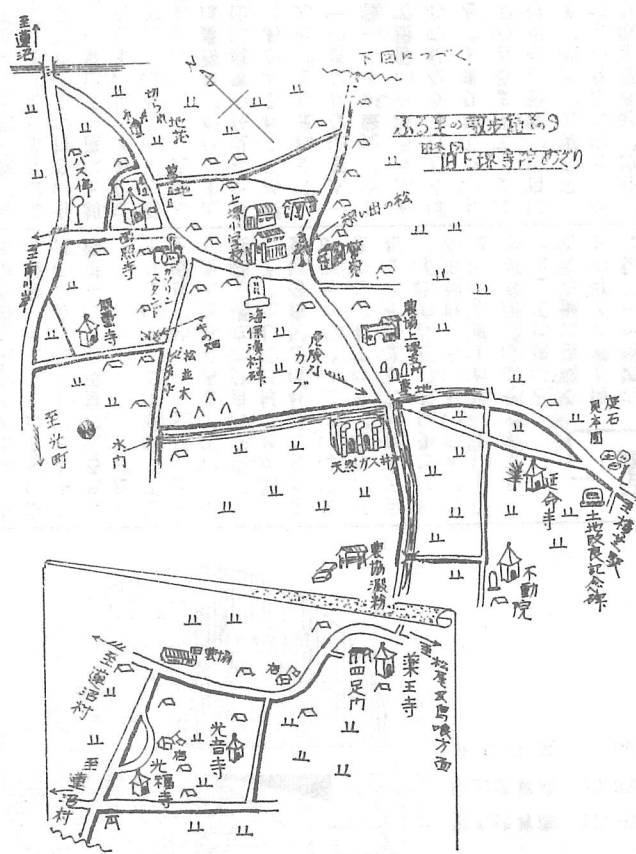
横芝へ上堺県道を下り、清水の十字路を通り抜けると、県道は大きく曲ります。その手前の左手には土地改良の記念碑が建っています。此処がコースの基点です。

まず、道路のカーブと反対の畑の中を見ますと竹藪に囲まれた小さな森が見えます。これが延命寺です。花崗岩の門柱をくぐると庭一ぱいに繁茂する千寿蘭が南国情調をただよわせています。此の寺にはスピッツが二匹飼育されていますので注意して下さい。延命寺を出ますと、丁度左手の方に清水東部落の森が見えて区画整理された農道がまっすぐに続いています。その突付が不動院です。入ってすぐ左側に朱塗のお堂が綺麗です。お堂の側にこの土地が生んだ弓と剣の達人川島亮先生の顕彰碑が建っています。碑文には「先生は特に弓道に勝れ寸余の強弓をひく」とあります。寸余という三五ミリの位の厚さの弓になる訳ですからその力量が偲ばれます。

折れて下さい。そして、右に松並木が見え、来ましたならば左手のマキの畑の手前から左に入って下さい。人家の生垣がブロック塀になりますと、それが無量寺です。此の寺には成田山の近くで見かけた海保〇〇守の墓石が建立されている筈ですから探訪して下さい。無量寺から田圃を越すと県道を曲り交差する道路は上堺県道で、次に訪れる西照寺は右手のすぐそこです。入ってすぐ右手には寒椿が咲いて、今切の松林を越えて聞えてくる汐騒と共に、此処にも南国の趣がただよっているようです。椿の花から境内の左に目を

不動院の門前から前方右手を眺めるとコンクリートの建造物が見えます。これは横芝の開発には欠くことの出来ない天然ガスの井戸です。此処を目的に進みますと、先程の県道に出ます。ここはよく自動車溝に飛込んだりする所ですから気を付けて下さい。ここから左手の排水溝沿に進みますと小さな水門があり道が突当りになりますから右に

を移しますと、立派な石碑が建ち「英風永存」の題字が目につきます。その下に刻まれた大貫大尉他の方々の氏名の中に姓のみで名前が刻まれていることに気付くと思えますが、これは第二次世界大戦に敵機と交戦し、此の付近で散華した方々の慰霊碑で、軍衣等に着けられた氏名等による他判らないためという事です。西照寺の前の農道を右に進み稍々広い道に出て左の方を眺めますと道端に小さな祠が見えます。これが本紙で紹介したことのある「切られの地蔵」です。今でも玩具の刀が祠の中にいっぱい供えられています。



いま立っている辺りは墓地が群集しています。「切られの地蔵」を見ましたならばいまの道を引返し左手の墓地の手前を入りましょう。そして人家の森から外れて田圃が開けて来ると向うにカマボコ型の上堺小学校の体育館が見えます。路は一応二本になりますが、どららを進んでも同じ舗装道路に出ます。光福寺は寺というよりは、一般の住宅のように見えますので手前の神社を目標にして下さい。舗装道路の突当りになった所が旧上堺農協です。ここから右に曲って大きく左にカーブした右手の四足門が薬王寺です。茅葺のお堂を眺めていますと、その裏の方から墨染の衣に網代笠という雲水僧でも現れそうな情景です。野鳥のさえずりが冬の田圃を奏しませてくれます。一時は土地改良事務所庫裡が使用されたとかで境内には土地改良の功労者顕彰碑が建っています。

今日のコースは薬王寺が終点ですから元の道を帰り、時間がありましたならば光音寺にも寄り見ましょう。この寺は安外古く創建らしく、寺内の墓石には元禄、享保、正徳等の年号が見られます。お堂や庫裡の軒下に蔵われている古い唐篋や筵編織が珍らしく目をたのしませてくれます。略図をたどると元の舗装道

県警察官募集

県警察署では若い優秀な警察官を多数募集しています。

資格は高等学校卒業程度以上の学力のある方で、昭和十七年四月一日までに生れた男子です。

受付期間は昭和四十五年二月十七日までですが、詳しいことは県警察署が駐在所でお尋ね下さい。

路です。小学校が見えて来ると突然道路の真中に松の太木が現れます。この松は小学校が寺小屋の時代から有ったとかで古老の要望で伐り残されたという、称して「想い出の松」だそうです。

この附近には幕末の儒学者海保漁村の誕生地等もあります。「想い出の松」を過ぎると上堺県道です。左に曲り巡査駐在所、塗装店、農協支所等の前を通りますとその先に見えるのが先程の天然ガスの井戸です。

カーブで事故の多い所ですから帰りに充分気をつけて下さい。(コースが人家から隔離された場所にも入るので、なるべく男子を交えた数名のグループで散策をされるようおすすめいたします。)